

学生らH T B活性化策

社長「貴重な意見、役立てたい」

経営学を専攻している学習院大と法政大の学生が30日、佐世保市のハウステンボス（H T B）で、H T Bの集客増に向けた活性化策を発表した。東園基宏社長も出席し、若者が見たH T Bの課題などを真剣に聞いた。

学習院大経済学部の上田隆徳教授と、法政大経営学部の木村純子准教授のゼミ生約80人。上田教授が知合いの木村准教授にH T Bの共同研究を持ちかけ、学生らが昨年10月から取りかかった。テーマごとに7グループに分かれ、H T Bでの現地調査も実施した上でリポートをまとめた。

法政大4年の和田恵さん（22）のグループは、首都圏の女子大生を照準にしたリポートを作成。園内の多く

の店が閉まる午後7時から、火花が上がる同8時45分までの時間を過ごす場所が少ないことを指摘し、花をライトアップする散歩道やカフェの新設を提案した。

東園社長は「痛いところを突かれた。貴重な意見として、今後に役立てたい」と評価。和田さんは「自分たちなりにうまくなると

法政大4年の和田恵さん（22）のグループは、首都圏の女子大生を照準にしたリポートを作成。園内の多く

話をしていた。



学習院大と法政大の80人